

県大 jiman

滋賀県立大学広報誌
第3号003
July. 2008



8月 上旬	インターンシップ(～9月下旬)
6 水	夏季休業開始
6 水	第2回琵琶湖塾 講師:谷垣慎一氏(衆議院議員)
6・7 水・木	大学院入学試験(工学研究科博士前期課程)
7～27 木～水	レクスベリオル州立大学(LSSU)夏期プログラム
6～8 水～金	集中講義期間
8 金	3年次編入学試験(工学部)
9・10 土・日	オープンキャンパス2008
28 木	大学院入学試験(人間文化学研究科生活文化化学専攻博士前期課程)
下旬	荒神山ロックフェスティバル

9月 6 土	3年次編入学試験(人間看護学部)
17 水	3年次編入学試験(環境科学部)
17 水	第3回琵琶湖塾 講師:澤田隆治氏(株式会社テレビランド社長)
17～22 水～月	集中講義期間
22 月	大学院入学試験(工学研究科博士後期課程)
24・25 水・木	大学院入学試験(環境科学研究科博士前期課程)
25 木	大学院入学試験(人間看護学研究科修士課程)
26 金	大学院入学試験(環境科学研究科環境計画学専攻博士後期課程)
30 火	夏季休業終了

10月 1 水	後期授業開始、後期公開講義開始
15 水	第4回就職ガイダンス(就職活動直前対策セミナー)
16・17 木・金	大学院入学試験(人間文化学研究科地域文化化学専攻博士前期課程)
18 土	第3回就職対策講座(SPI試験対策セミナー)
22 水	第5回就職ガイダンス(キャリアデザインセミナー(1))
29 水	第4回琵琶湖塾 講師:手嶋龍一氏(作家)

11月 6 木	「湖風祭」前日準備(全学休講)
7～9 金～日	大学祭「湖風祭」
10 月	「湖風祭」後片付け(全学休講)
15 土	第4回就職対策講座(エントリーシート・履歴書対策セミナー)
19 水	第6回就職ガイダンス(キャリアデザインセミナー(2))
26 水	第7回就職ガイダンス(就職活動体験談発表)
26 水	第5回琵琶湖塾(公開琵琶湖塾) 講師:三枝成彰氏(作曲家)
27 木	3年次編入学試験(人間文化学部)
30 日	特別選抜試験

12月 6 土	第5回就職対策講座(論作文対策セミナー)
10 水	第8回就職ガイダンス(業界研究・企業研究セミナー)
10 水	第6回琵琶湖塾 講師:前原誠司氏(衆議院議員)
17 水	第9回就職ガイダンス(キャリアデザインセミナー(3))
17～19 水～金	集中講義期間
23 火	冬期休業開始
23～26 火～金	補講期間
24 水	第6回就職対策講座(面接対策セミナー)

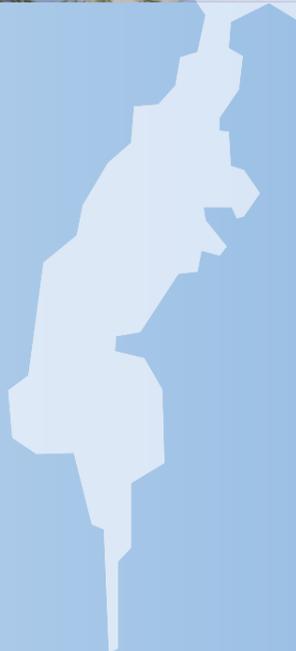
1月 4 日	冬期休業終了
6～13 火～火	集中講義期間
13～22 火～木	企業研究会(学内業界・企業研究会)
14 水	第10回就職ガイダンス(キャリアデザインセミナー(4))
17・18 土・日	大学入試センター試験

県大 jiman calendar

THE UNIVERSITY OF SHIGA PREFECTURE

特集

- キャンパスから地域へ ～学外活動のススメ～ 2
「学生力」で地域が変わる! 奥貫教授インタビュー
私と近江楽座
出張! 県大サークル
県大生の味方 地域拠点マップ
- 学生企画 県大便利帳 part 2 6
意外と知らない大学活用法
- 県大Report
- Labo Report 8
県大jimanな研究室。今回は工学部 メカトロニクス研究室です。
- Class Report 8
あの授業はどんな授業?今回は環境科学部の環境フィールドワークです。
- After School Report 9
クラブ・サークルの紹介。今回はウインドサーフィン部とカヌー部です。
- 県大 Book Review 9
今回は県大の先生が執筆した本を紹介します。
- トピックス&インフォメーション 10
県大イベントカレンダー



「県大 jiman」について
琵琶湖と滋賀の自然をイメージカラーにし、胸を張って「自慢」する、明るく前向きに応援する気持ちをロゴにデザインしました。

滋賀県立大学
The University of Shiga Prefecture

滋賀県立大学の広報誌「県大jiman」もついに3号目。滋賀県立大学が持つキラリと光る「jiman」なところを紹介する広報誌です。今回は滋賀県立大学の特徴のひとつ。地域での活動をクローズアップしました。様々な場所で活躍する「県大人」の活躍を通して、「人が育つ大学」を標榜する滋賀県立大学の姿を見て欲しいと思っています。今後も「県大jiman」をよりよい広報誌に育てていくために、今後ともみなさんのご協力をいただきたいと思いますので、ご意見・ご感想をお寄せください。

学生広報スタッフ大募集!
広報誌作成グループでは、県大jimanの作成に参加してくれる学生を募集しています。私達と一緒に、県大の素敵な「jiman」を紹介してみませんか。デザインの専門知識がなくても大丈夫です。興味のある方は、気軽にお問い合わせください。

from 広報スタッフ
県大だからできることに感謝です。(人間文化学研究科博士後期課程 亀山 芳香) 最近県大jimanが趣味になってきました(-;-。(人間看護学部2回生 林 伶史)
文章力がついてきました!イェイ♪(環境科学部3回生 浅井 千穂) 留学バンザイ!(人間文化学部2回生 長野りょう)
取材するのが難しい・・・(人間文化学部2回生 田辺 京子) できるだけ多くの人に見てほしいです。(環境科学部2回生 清山 風人)
県大生の行動力に今後も期待大!(工学部 河崎澄) 県大のjimanが読めるのは県大jimanだけ!(人間文化学部 佐々木 一葵)
あまりお手伝いできなかったですが(事務局 矢野 圭昭) 学外活動に県大jimanお勧めです。(事務局 高田俊裕)
とても楽しかったです。

発行/滋賀県立大学広報委員会
編集/広報誌作成グループ
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
Tel.0749-28-8200 Fax.0749-28-8470
URL: www.usp.ac.jp
E-mail: webmaster@usp.ac.jp
発行日/2008年7月31日



特集

キャンパスから地域へ 〜学外活動のススメ〜

地域で活躍する県大の学生たち。「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」の土壌で育まれた校風のもと、地域で感性を養い、学びへとつなげている学生をスームインし、その活動拠点についても紹介していきます。

「学生力」で地域が変わる！

大学と地域を結ぶ県大オリジナルの教育プログラム「近江楽座」。今回は、その創設から携わってきた環境科学部長の奥貫教授に学生広報スタッフがインタビューしました。

地域で活躍する県大生が目立ちますが、そうした学生が育つ背景についての様にお考えですか？

その理由は、この大学の校風にあります。初代学長である日高敏隆先生の教育に対する基本的な考え方一人を育てるのではなく「人が育つ」が、大学づくりの根底にあります。そのことが、カリキュラムに表われています。

ひとつは、一般教養科目に代わって取り入れられている「人間学」。人間学は、将来の世界を背負って立つ人間として自立、成長していくために、人間のすばらしさ、学ぶことの楽しさを知るための科目です。二つめは、知識としてのみではなく実践を通して学ぶことを重視した教育の考え方を一回生から必修科目となっている環境ワールドワーク(環境科学部)や琵琶湖文化論実習(人間文化学部)などの授業がそれです。地域に合った環境や文化を肌で感じるとる一方で、社会の高齢化、コミュニケーション

の再生、まちづくりなど様々な課題を知り、その上で自分が大学で学ぶことの目的や方法を発見していく。こうした大学の校風やカリキュラムを通して、学生たちの間に早い段階から地域への眼差しが芽生えていくのです。

大学と地域を結ぶ県大のオリジナルの教育プログラムとして、「近江楽座」がありますね？

このプログラムを創り上げるときには、ネーミングにずいぶんこだわりました。取り組むきっかけとなったのは、平成16年度に文部科学省が創設した「現代GP」※でした。「地域活性化への貢献」というテーマを選び、「学生力」を活かした地域活動を大学としてサポートするプログラムを考えました。近江楽座は、「楽市楽座」の発想を大学教育の中に組み込んでみるという考えから生まれたものです。歴史の舞台となってきた滋賀県をイメージしながら「学生力」で地域に新しい風を吹き込もう、そんな思いが込められています。

私も未来看護塾という近江楽座の活動を通して、座学ではわからないことが見えてくることを実感しています。病院で働いている方や地域の皆さんの話はとても参考になります。先生のような存在です。

環境・循環・連環の環(わ)という意味です。近江楽座から近江環(わ)へ、大学と地域の新たな関わりの中から学生が育っていく。既に第二ステージが始まっています。

滋賀県や彦根市など地方がかかえている課題は、日本の社会が持つ課題と基本的には同じものです。それを解決するためには市民の一人ひとり社会性を持つこと。社会的市民として成熟することです。近江楽座の学生たちは、活動を通してそのことの意味を学んでいるはずですよ。

また、今年10月から人間学の新科目として「地元学入門」がスタートします。自分たちもテーマを発見し、行動したいと考えている学生にお勧めの授業です。近江楽座の活動が多くのメディアで報道されていますが、プレッシャーに感じることもなく、よりパワフルに活動してくれることを期待しています。

※文部科学省の教育改革プログラムのひとつ。GPは、Good Practice(優れた教育プログラム)のこと。

奥貫 隆

・ランドスケープ・アーキテクト
・住宅・都市整備公団(1968-1996)の設計部、事業部でニュータウン開発や都市再開発の環境計画・景観計画を担当。1996年本学環境科学部環境計画学科教授に就任。「近江楽座」および「近江環(わ)地域再生学座」のリーダーを務めた。



菜の花エネルギー

森耕太郎さん
(工学研究科 博士前期課程2回生)



地元の方々にエネルギー問題と、バイオマス燃料について知ってもらおうと、菜の花の栽培やエネルギー講座などの活動を続けています。活動を通じて一番感じたことは、自分の思いを人に伝える難しさです。エネルギー講座で一般の方々の前に立ったとき、立場の違う相手に興味を持ってもらうということがいかに難しいかを痛感しました。何を伝えるかの前に、どんな人に伝えるのかをまず考えなければならぬと強く感じました。

UTSUWAD

野口香織さん
(人間文化学部4回生)



彦根の歴史である「湖東焼」を復興させるための広報活動や、体験道場のお手伝いをしています。湖東焼という歴史を学生がPRしていくのは難しい事でしたが、今では地域の方々の賛同を得て、一緒に楽しく活動しています。今まで知らなかった彦根という町で4年間の大学生活を過ごす、おのずと町の雰囲気や市民との関わりがあります。しかし、自ら活動に参加していくと町との関係がさらに深まり、居心地のよい町となります。1つのプロジェクトとして彦根に新しい何かを作るのではなく、彦根の地域の活動に入れてもらう、いろんなことを発見できます。

エコキャンパスプロジェクト

久富寛子さん、井上太樹さん、田口真太郎さん
(環境科学部3回生)



エコキャンパスプロジェクトの中には、人と自然をつなげる会、犬上川竹林プロジェクト、木楽部会があり、それぞれ「自然に興味を持ってもらう」「犬上川の放置竹林の問題解決」「木でものづくり」という活動を行っています。自分の好きなことや興味のあることで自らが楽しむとともに、学外にも出て地域の人たちと一緒に活動することで得られた新たな発見や達成感、責任感は大きな財産となっています。

男鬼楽座

宇野将人さん(人間文化学部4回生)
昭和46年に人が住まなくなった彦根市の山村「男鬼(おおり)」で、茅葺き民家の保存・活用を目指す活動をしています。元は男鬼にお住まいだった方が、差し茅をおこった屋根を見て安心された顔を見たとき、不安も多かった自分たちの活動を続けてきてよかったと実感することができました。大学に入学して以来、ほとんどが受身の毎日でしたが、男鬼楽座を始めてから、自発的に行動できるようになりました。自分で自信をつけることもできましたし、就職活動でも自分を売り込む良い材料になりました。近江楽座は自分と向き合える場であると思います。





私と近江楽座

スチューデントファーム「近江楽座」
-まち・むら・くらしふれあい工舎-

近江楽座マスコット
メイミーちゃん

近江楽座は、学生による地域活動のプロジェクトを、指導教員、地域づくり教育センターとともに推進していく試みです。平成16年度から3年間は文部科学省からの補助金で運営されていましたが、平成19年度からは大学独自の予算を用いて取り組んでいます。「地域活性化への貢献」をテーマとした学生主体の地域活動について、体験者にインタビューをしました。

未来看護塾

佐々木美紀さん
(人間看護学部3回生)



彦根市立病院小児科や、高齢者・障害児福祉施設「ぼぼハウス」へのボランティア訪問などを通して、机上では学ぶことの出来ない体験をさせてもらっています。看護学生とはいえまだまだ出来ることは限られますが、地域の子供たちやお年寄り等さまざまな方がボランティア訪問を喜んでくださるのでやりがいがあります。人との出会いや意見は私たち看護学生にとって貴重な財産となります。これからも地域の方々に見守られながら成長していきたいです。

木匠塾

久郷晴哉さん(環境科学研究科 博士前期課程2回生)
2回生のときに近江楽座が始まり、「わっしょい湖東」や「TTP(Taga Town Project)+」に参加し、多賀木匠塾の活動を通して、まちの人と関わり、実際のニーズに応える形で、まちにモノを建てる面白さを体感してきました。先輩や先生はもちろんのこと、まちの人たちと話をすることで、他人の価値観にも触れることができ、人と接することや、物事に取り組むことが楽しくなりました。近江楽座にはたくさんの方のきっかけがころがっていると思います。何かを得ようとするなら、ほんの少しの好奇心を大切に、まずは飛び込んでみるのもいいと思います。



出張!

地域で活躍する県大サークル

県大のキャンパスにはもともと「垣根」がないのですが、そのせいか、たくさんサークルがキャンパスの外に飛び出してボランティア活動をしています。そんなサークルをいくつか紹介します。

元気会

私たち「滋賀県立大学を元気にする会(通称「元気会」)は、主に餅つき・振る舞い餅を通して、文字通りみんなに「元気」になってもらうことを目標として活動をしています。県大以外では、滋賀大学経済学部の開学祭やびわ湖学生Festivalでの活動のほか、ボランティア活動の一環として、地域の方々にお招きいただいております。

イベントでは地域のお子さんやお年寄り、またさまざまな年齢層の方々も餅つきに参加していただきます。実際に餅つきをしていると合の手を入れてくださったり一緒に餅を丸めると自然と会話が始まり、人と人とのかけがいの楽しさ、大切さをいつも肌で感じています。



Harmony

自閉症などの障がいを持った子どもたちの余暇活動のお手伝いをしています。学校の往復以外は閉じこもりがちになってしまう子どもたちが、外に出て家族や学校の友達以外の人たちとの関わりを持てるように、お茶会や粘土工作、カヌーや宿泊の体験などをおこなっています。ハンディを抱えた子ども達やその家族、養護学校教員、地域の方などと交流することで、学生自身も障がい児・者とのコミュニケーションを学び、社会人として成長することを目指しています。



吹奏楽部

吹奏楽部は年1回の定期コンサートのほかに、南彦根駅前のショッピングセンターVIA CITYでのミニコンサートや、荒神山公園祭りの野外演奏など様々な場所で開催しています。時にはまちおこしのイベントによべれたり、老人福祉施設や障害者支援施設、幼稚園などから依頼を受けたりして、演奏・交流に行くこともあります。このように様々なところに出かけて、いろんな人たちに練習の成果を聞いてもらうことに、良い刺激ももらえ勉強になるので、ふれあいを大切に活動しています。



～「県大jiman」広報スタッフ～

広報という視点から地域へ

今あなたが読んでいる「県大jiman」、実は学生と教職員が一緒になって作っています。現在は学生7名、教職員4名の計11名で作っています。インタビューや取材なども行うので、学内の人はもちろん学外のさまざまな人たちと関わることができ、目からウロコの話もあります。

これからも7月末と1月末の年2回発行の予定です。もちろんスタッフも募集中なので、興味を持った人はぜひ一緒に「県大jiman」を作りましょう!



連絡先：事務局経営戦略グループ 高田俊裕
Tel: 0749-28-8507 E-mail: takata.t@office.usp.ac.jp

地域に出かける学生を応援!

地域での交流や小中学校でのボランティア活動をする時などは、後援会から交通費(上限3000円)が助成されることがあります。

申請が必要ですので、後援会(学生・就職支援グループ)までお問い合わせください。

県大生の味方 地域活動拠点マップ

キャンパスから飛び出す県大生をサポートする地域活動拠点。大学が運営するものもあれば、地域の企業や商店街のひとびとの協力によって運営されているものもあり。ここでは、その活動拠点のいくつかを紹介します。

大学サテライトプラザ・彦根は2007年4月に、彦根市内の3大学(滋賀大学・聖泉大学・県立大学)と彦根市・彦根商工会議所(株)平和堂の計6団体が設置した施設です。

レクチャールーム(定員約30名)が3室あり、間仕切りをはずすことで1つの大部屋として使うことも出来ます。部活動やサークル活動のミーティングの場としても使われており、「彦根駅前」で交通の便も良いので、学生の皆さんもどんどん活用してください。(職員の山崎さん)

利用条件としては6団体の関係者であること。関係者であれば基本的にはどなたが使っても無料です。

問い合わせ
彦根市大東町2-28
平和堂アル・プラザ彦根6階
TEL 0749-26-0488
FAX 0749-26-4882



大学サテライト・プラザ彦根

花しょうぶ通り商店街 ひこね街の駅 寺子屋 力石・戦国丸

「寺子屋 力石」はひこね街の駅1号店です。「街の駅」とは、みんなが利用できるプラットフォームで、実践研修や人材育成を行ったり、全国の人々に街の歴史や文化、情報やもてなしなどを提供、発信したりしています。

また、会議場として借りることもでき、学生や教員の発表の場としても使われています。(午前・午後・夜それぞれ500～1000円程度で借りることができます。)コンサートなどを開催したいときには街の駅2号店の「戦国丸」をお勧めします。同じ花しょうぶ通りにあり、元お風呂屋さんだったこともあり音響がすごく良好です。

問い合わせ(寺子屋 力石)
彦根市河原2丁目3-6
花しょうぶ通り
TEL 0749-27-2810



リバーサイド橋本通り商店街 いこう館

江戸時代、彦根城の築城が終わり城下町の整備が始まると、その一環として芹川の河川改修工事が行われました。その時、架けられた橋のたもとにつくられたのが現在の橋本商店街で、彦根で一番古い商店街です。

いこう館は、商店街をもっと地域交流が深められる空間として活用したいという思いから、平成19年にオープンした多目的施設です。人間文化学部の学生が商店街と協力しウッドデッキのある空間にリフォームしました。現在では生活栄養学科の学生が実習などで利用しており、今後のさらなる利用が期待されます。

問い合わせ
彦根市河原2丁目7-27
TEL 0749-24-8032



「地元学入門」はじまる!

近江楽座の学生プロジェクトを教材化し、教員と学生が協働して創り上げる「地元学入門」が、今年の後期から人間学の新科目としてスタートします。近江楽座に係わる教員が共同で授業を担当し、また近江楽座に参加している学生自身によるプレゼンテーションも組み入れられ、地域の今を題材に、何をどう学ぶか、どう育つかを自分自身の問題として考える授業となる予定です。

授業の副教材となる近江楽座の活動をまとめた本の出版も間近に控えています。

この特集記事を読んで地域での学外活動に興味をもったあなた、10月から始まる「地元学入門」はおススメです。

相談編

けがをした、気分が悪いときなど

大学管理棟（AO棟）の1階には、健康相談室（保健室）があります。月曜日から金曜日までの9時30分から16時15分までは看護師さんがいます。それ以外の時間でも学生支援センターの職員に声をかければ利用できます。夏期休暇中や土日でも学校行事がある時などは利用できます。緊急の場合は学生支援センターまでご連絡ください。



保健室の井戸先生

悩みを聞いてほしい

健康相談室の横に学生相談室（カウンセリング室）があります。ここでは、大学生活全般について悩みや心配事など臨床心理士の先生に気軽に相談できます。室長で人間看護学部教授の松本先生によると、「対人関係や就職や学業など、どんなことでも相談に来てください」とのことです。

- 開室期日 月、火、木曜日（予約制）
 - 受付時間 13:10～16:20
 - 担当者 月曜日 松嶋 秀明 先生
火曜日 松本 行弘 先生
木曜日 五井和佳子 先生
- 学生支援センターにて予約できます。



松本先生

留学編

皆さんは交換留学制度を知っていますか？県大には以前から、中国・湖南省とアメリカ・ミシガン州の大学と交換留学制度がありますが、今年からはそれに加えて、韓国、モンゴルとも交換留学ができるようになりました。そこで今回は留学のすばらしさを伝えるために、交換留学制度や留学経験のある学生の体験談を紹介します。

交換留学制度でどこにいけるの？

交換留学制度の留学先は5校あります。

中 国	アメリカ	モンゴル	韓 国
湖南師範 大 学 (10名以内)	湖南農業 大 学 (2名以内)	ミシガン州立大学 連合日本センター* (2名以内)	モンゴル国立大学 社会学部社会・文化 人類学科 (3名以内)
			国民大学 文 科 大 学 国 史 学 科 (3名以内)

*加盟15大学から希望する分野などにより学校を選定。その大学で専門科目を履修することとなります。

どうやって申し込むの？

海外留学説明会が7月と10月の年2回開催され、2回目の説明会の後に交換留学の受付がはじまります。興味のある方は、ぜひ事務局の教務グループへ相談してみましょう。（モンゴルと韓国への交換留学は、人間文化学部地域文化学科の学生が対象なので、地域文化学科へお問い合わせください。）

留学体験者

竹林友紀さん

（人間文化学部3回生）

「いろんな国の人が日本や日本人をどう見ているのかが分かりました。」

1年間海外で学べるなんて今だけだよ！」



森 愛鐘さん

（人間文化学部2回生）

「しばらく日本を離れたことで、今まで当たり前過ぎて気づけなかった日本の良さに気づくことができ、以前より、もっと日本が好きになりました。」



留学案内人

寺村 功さん

（事務局教務グループ留学担当）

「留学の魅力は異なった文化を自分の目で見て、認識できることです。今は大金だと思えても、留学にはそれだけの価値があります。」

学生支援センターとは？

2008年3月に開設した学生支援センターとはどんなところなのか、職員の茶谷さんに聞きました。「学生の皆さんが安心して充実した大学生活を送れるように、多様な相談に対応する総合窓口です。学生の様々な悩みや相談に応じて、いろいろな方向からサポートしていきます。」

なるほど。いわば私たち学生の相談相手になってくれるところなのか。

誰に、あるいはどこに相談をしたらいいのか、困っている人も多いはず。そんな時は学生支援センターに行ってみましょう。

Tel：0749-28-8218 （場所は学生・就職支援グループカウンターの横）



BENRIEEEEEE!!



県大便利帳 part2 意外と知らない大学活用法

学生を支援するサービスがたくさんあることを知っていますか？困っているときや相談をしたいときはどうすればよいのでしょうか？そこで今回は、皆さんが充実した大学生活を送れるようにサポートする便利なサービス、ぜひ使って欲しいサービス、また図書館の活用術を紹介します。

もっと勉強したい！編

授業の事で質問がある

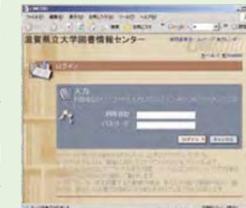
授業の内容の質問や、先生に聞きたいことがある時は、オフィスアワーを活用しましょう。オフィスアワーは先生がそれぞれに設けている、気軽に話を聞きに行ける時間帯です。先生によって時間は違うので詳しくは、「滋賀県立大学HP」→「教育プログラム」→「オフィスアワー」でチェックしてください。

勉強の効率を上げたい

図書館司書の方おすすめは、図書情報センターのウェブサービス「マイライブラリ」です。

マイライブラリでは、図書の予約やリクエスト、自分が今借りている本の確認もできます。

カウンターで登録してIDを取得しましょう。詳しくは、「滋賀県立大学HP」→「附属施設」→「図書情報センター」を1度覗いてみてください。



土曜日も勉強したい

学生や先生から「休日も図書館を利用したい」という要望があり、2008年度から、月に1度、土曜日の開館が始まりました。今年度はあと、10月25日、11月29日、12月20日、1月31日、2月7日に開館されます。開館時間は9:00～17:00です。

図書館司書の駒井さんは「思っていた以上の利用者がいてうれしいです。たくさんの人に利用してほしいです」と話していました。



集中して勉強したい

図書館の1階には個人閲覧席、3階にはグループ閲覧室があります。個人閲覧席は落ち着いて資料を閲覧したり、勉強したりできます。試験前は特に利用者が増えているそう。グループ閲覧室は3人以上で3時間単位の利用ができます。グループワークなどで話し合いをするときに便利です。両方も事前にカウンターへの申し込みが必要です。



ほっと一息編

ちょっと運動したい

昼休みや空き時間に、運動したり遊んだりしたい時は、事務局で用具が借りられます。ソフトバレーボール、バドミントン、軟式野球、テニスができます。友達とスポーツをして楽しく過ごそう！



図書館でほっと一息

空き時間などに視聴覚コーナーで映画を見るのはどうですか？洋画、邦画、ジブリ、あなたのお気に入りを見つけましょう。もし時間内に見終わらなくても、3日間借りることもできます。

私のオススメは新聞コーナーです。他の新聞との読み比べができるので、新聞が好きな人、就職活動をしている人に特にオススメです。また折り込み広告も置いてあるので、ついにお買い得商品もチェックしましょう。

番外編

なごみたい

図書館2階の入口ゲートでは、くまのぬいぐるみ「けんとう君」がお出迎え。昨年「かわいい」と人気が出た図書館の看板くまさんです。時々、けんとう君は洋服を着替えているそう。かわいい服を作ってくれる方、大歓迎です！



ここも開いてよ

図書館の交流センター側入口の利用時間が延長され、9:00～19:00まで開いています。



After School Report

地の利を活かして琵琶湖で鋭意練習中！

滋賀県立大学と琵琶湖は目と鼻の先です。今回はウインドサーフィン部とカヌー部を紹介します。どちらも、高校までの経験者が少ないスポーツなので、大学生の間にスポーツで一旗揚げてみたい人はこのコーナー必読です。

ウインドサーフィン部

私たちウインドサーフィン部は、コースレースという競技に取り組んでいます。この競技では、選手が一斉にスタートし、海上に設置した複数のブイをいかに早く回ってゴールするかを競います。単純そうですが、風向や風速はめまぐるしく変化するので、勝つためには艇を乗りこなす技量と風を読む力が必要です。部員数は29名で、滋賀大学ウインドサーフィン部と合同で活動をしています。春から秋は琵琶湖松原浜で練習を行い、冬は和歌山の南紀で技量に磨きをかけ、学生選手権や各地の大会に参戦しています。



風を感じたい人は迷わず松原浜へ来てください。
URL <http://windsurfing19-77.main.jp/>

カヌー部

カヌー部は大学開学の1995年に設立された老舗クラブで、スラロームという競技に取り組んでいます。スラロームは、川に設置された複数のゲートを接触しないようにいかに早く通過できるかを競う競技です。川によって水流やゲートの配置が異なるところがスラロームの難しさであり、魅力でもあります。部員数は42名で、平日は大学の目の前にある犬上川や琵琶湖の“静水”で基礎練習をし、週末は天津の瀬田川の“流水”で実践的な練習をしています。そして、東京多摩川で開催される全国学生大会のほか、各地の大会に参戦し好成績を収めています。



新入生には、直進の仕方や転覆したときの起き上がり方など、初歩的な操作から、先輩が丁寧に指導するので、興味のある人は是非挑戦して下さい。
URL <http://csspcat8.ses.usp.ac.jp/users/canoe/>

Kendai Book Review

「エレクトロスピニング最前線 —ナノファイバー創製への挑戦—」



山下義裕 著
工学部材料科学科講師
繊維社 (2007)

この本はエレクトロスピニングに関する国内初の解説書です。エレクトロスピニングとは極細繊維であるナノファイバー(*)を電気的に作成する方法の一つですが、国内ではあまり普及していませんでした。

ナノファイバーは細胞の培養などに優れており、医療面でも使用されている画期的な技術です。アメリカでエレクトロスピニングの研究をしていた山下先生は帰国後、国内で基礎になりうる解説書が必要だと感じ、この本を執筆しました。

この解説書に必要な設備があれば研究ができるように作られており、国内でも注目されている一冊です。また、海外の人も利用できるよう一部英語で書かれています。

(*) 直径10nm-500nm (1nmは10億分の1メートル)

「ムガル都市 —イスラーム都市の空間変容—」

布野修司*1 山根 周*2 共著

*1 環境科学部環境建築デザイン学科教授
*2 人間文化学部生活デザイン学科講師
京都大学学術出版会 (2008)



布野教授



山根講師

インド・パキスタンのイスラーム都市はこれまであまり研究されていませんでしたが、ムガル朝の主要都市を対象とし、現地におけるフィールド調査を重ねて、その空間構成や歴史的な変容をまとめました。

この本は「インド・イスラーム都市」論とも呼ぶべきものとなっています。

布野先生と山根先生は京都大学時代の指導教官と学生の関係であり、県大で再び一緒になったとのこと。現在は学部をこえて、ゼミや今回の著書など多くの仕事を共同で行っています。

「学生の皆さんには現場（フィールド）から考える姿勢を持ってほしい」（山根先生談）

Labo Report

工学部機械システム工学科・メカトロニクス研究室

使う人のことを考えた機械をつくる

「メカトロニクス」はmechanics（機械工学）とelectronics（電子工学）が融合した学問分野です。軸や歯車などの部品から成る機械に、センサーやモーターなどの電子部品と、それらの動きをコントロールするコンピュータを加えて、より高性能な機械を生み出すのがメカトロニクスです。

研究室の教員は田中先生、安田先生、森脇先生の3名で、「人と機械の接点を良くして、人の気持ちに逆らわない機械をつくる」ことをメインテーマとして、様々な研究に取り組んでいます。

現在取り組んでいるテーマの1つは、地中に埋まっている金属体の中から、地雷を判別するための画像表示システムの開発です。また、ベッドから車椅子への乗り移りなどを介助するロボットや、障害物を自動的に回避するインテリジェント電動車椅子、デジタル画像を利用して、視覚障害者を誘導することのできる歩行支援ロボットなど、福祉機械の研究も盛んです。

学生の研究指導では、「よく考えて、何でも自分でつくり、失敗したらまた考える、この繰り返しが大切です。」と田中先生。機械をきめ細かくコントロールするための理論を考えながら、実際に使えるものをつくることにチャレンジしています。



研究室DATA

教員：
教授 田中勝之 k-tanaka@mech.usp.ac.jp
准教授 安田寿彦 yasuda@mech.usp.ac.jp
講師 森脇克己 moriwaki@mech.usp.ac.jp

研究室：工学部C6棟1階
URL：<http://www.mech.usp.ac.jp/~maw/index.html>

環境フィールドワークⅠ



農地観察の様子

テーマ

- ・水系と生活空間
- ・愛知川周辺の農地をめぐる自然・社会環境
- ・廃棄物とリサイクル
- ・流域環境の構造と機能

環境フィールドワークⅠは1回生の必修科目です。この授業ではグループに分かれ、4つのテーマを1年間のローテーションで学習します。その中で環境問題に対する視点を持ち、プレゼンテーションやレポートの基礎能力を身につけることが目的となっています。

環境フィールドワークⅡ



県大農場での田植え

テーマ

- ・木と生活
- ・開出今圃場の挑戦を検証する
- ・赤野井湾に注ぐ水系……などの10テーマ

環境フィールドワークⅡではⅠよりも発展的な内容となり、学生は10テーマの中から興味のあるもの一つを選択し、調査やフィールドワークを行います。自然調査や社会調査を学び、調査結果を報告書としてまとめることを主な目的としています。

Class Report

環境問題と向き合う

環境フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲ

環境科学部共通科目
担当教員：環境科学部全教員

環境フィールドワークは、環境科学部共通の授業です。琵琶湖とその周辺地域の自然と人間の間で生じている様々な環境問題を題材にし、フィールドで自分の五感を働かせて体験・学習します。

一般的な授業と異なるのは、学生が実際に現地に赴き調査を行ったり、個人の興味に基づきグループワークを行うことにより、プレゼンテーションやレポートのスキルアップを図ることができる点です。

1回生では環境問題に対する視野を広げること、2回生では具体的な環境問題についてフィールド調査をもとにした総合的理解を目的とします。3回生では、選択科目となることで、より発展的な内容となり、さらに深く環境について学ぶことができます。

Information

受賞・表彰

- ・日高敏隆初代学長
平成20年春の叙勲瑞宝重光章
- ・環境科学部 松岡拓公雄教授
土木学会デザイン賞2007最優秀賞
- ・2008年日本建築学会賞 業績賞
環境科学部 陶器浩一教授
- ・2008年日本建築学会賞 技術賞
人間文化学部4回生 藤田知佳さん
- ・WORLD SPACE (CREATORS)
AWARDS 2008
学生部門大賞(藤田さん)
学生部門優秀賞(林さん)
- ・グリーンコンシューマーサークル
第6回日本環境経営大賞の環境価値創造部門「環境連携賞」
- ・人間文化学部3回生 中城信さん
第75回毎日広告デザイン賞
第一部「広告主課題の部」学生賞
- ・工学研究科博士前期課程2回生
石田裕也さん
2007年度(社)自動車技術会・学生自動車研究会功労賞
- ・人間文化学部1回生 南和宏さん
「堀江スツール2」金賞
- ・環境科学部研究科博士前期課程
1回生 久郷晴哉さん
「堀江スツール2」銅賞
- ・吹奏楽部
第34回関西アンサンブルコンテスト銀賞
第34回滋賀県アンサンブルコンテスト金賞

寄付

- ・滋賀県立大学工学部支援会様(滋賀県立大学工学部振興基金へ360万円)
- ・中田雅喜様(漫画家・エッセイスト)(環境生態学学科へ600万円)

人事異動

着任

- 石野 耕也
環境科学部 教授
(環境政策・計画学科)
- 林 宰司
環境科学部 講師
(環境政策・計画学科)
- ヒメネスベルデホ
ホアン ラモン
環境科学部 講師
(環境建築デザイン学科)
- 増田 清敬
環境科学部 助教
(生物資源管理学科)
- 大浦 靖典
工学部 助教
(機械システム工学科)
- 稲葉 博美
工学部 教授
(電子システム工学科)
- 乾 義尚
工学部 教授
(電子システム工学科)
- 作田 健
工学部 教授
(電子システム工学科)

退任

- 柳澤 淳一
工学部 教授
(電子システム工学科)
- 岸根 桂路
工学部 准教授
(電子システム工学科)
- 福岡 克弘
工学部 准教授
(電子システム工学科)
- 竹内 日出雄
工学部 准教授
(電子システム工学科)
- 畑中 裕司
工学部 准教授
(電子システム工学科)
- 坂本 真一
工学部 准教授
(電子システム工学科)
- 定森 秀夫
人間文化学部 教授
(地域文化学科)
- 上野 有理
人間文化学部 助教
(人間関係学科)
- 中村 好孝
人間文化学部 助教
(人間関係学科)
- 菜名 亜希子
人間看護学部 助手
(人間看護学科)
- 山田 博子
人間看護学部 助手
(人間看護学科)

所属替え

- 工学部電子システム工学科
教 授 松下 泰雄
- (機械システム工学科より)
- 教 授 奥村 進
- (機械システム工学科より)
- 准 教授 谷口 義治
- (機械システム工学科より)
- 准 教授 亀田 彰喜
- (国際教育センターより)
- 准 教授 宮城 茂幸
- (国際教育センターより)

退職

- 事務局経営戦略グループ
主 査 矢野 圭昭
(事務局地域貢献研究推進グループより)
- 事務局教務グループ
統 括 細野 善夫
(経営戦略グループより)
- 環境科学部環境生態学
教 授 大田 啓一
- 環境科学部生物資源管理学科
教 授 矢部 勝彦
- 環境科学部生物資源管理学科
教 授 秋田 重誠
- 人間文化学部地域文化学
教 授 菅谷 文則
- 人間文化学部生活文化学
教 授 梅原賢一郎
- 人間文化学部生活文化学
教 授 小林 清一
- 人間文化学部生活文化学
講 師 明和 政子
- 人間看護学部人間看護学
助 教 嶋澤 恭子
- 人間看護学部人間看護学
助 手 寺田美和子
- 人間看護学部人間看護学
助 手 江藤美和子
- 事務局財務グループ
主 査 西野まり子
- 事務局図書情報グループ
主 査 廣川八重子
- 工学部材料科学科
准 教授 来田村賞信

Topics & Information

TOPICS 01

滋賀県立大学 校歌「鮎撥ねる」 が初披露される

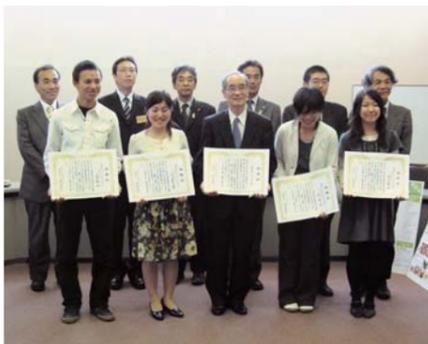


※歌声は本学HPでお聴きいただけます。
http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/kouka.html

平成20年度の入学式で滋賀県立大学校歌「鮎撥ねる」が合唱され、みなさんに初めて披露されました。
本校校歌は昨年度、学内に校歌制定委員会を設置し、歌詞の公募などを経て制定されたものです。また、今回の披露にあたっては、学内から募集した学生30名で合唱団を結成して練習を重ね、新入生の門出をお祝いしました。
本校校歌には「人が育つ大学」「キャンパスは琵琶湖。テキストは人間。」という理念のもと、琵琶湖をとりまく豊かな自然の中で育つ、若者達の姿と営みが歌い上げられています。

TOPICS 02

近江楽座「くつき チーム」が高島市 長から感謝状を贈 呈される。



▲「くつきチーム」の学生(前列)と曾我学長(前列中央)

近江楽座プロジェクトチームの一つ「くつきチーム」と本学に、高島市から感謝状が贈呈されました。
くつきチームは、高島市が実施する、朽木中学校・東小学校の体育館建築にむけた地域参加型プロジェクトへの参加を中心に活動し、ワークショップの開催や記録紙「朽木ぐるぐる瓦版」の発行を通じて、幅広い世代の地域住民がさまざまな形で参加できるしかけづくりをサポートしました。
こうした活動が高島市から「情報提供を通じて、教育、森林、地域等の密接な連携を図るなど、地域活性化に対して多大なる貢献をした」と評価されたものでした。

TOPICS 03

電子システム 工学科の新棟 建築はじまる



平成21年3月の完成をめざして、工学部電子システム工学科の新しい学科棟の建築工事が始まりました。
この施設的设计にあたっては、環境科学部環境建築デザイン学科の教員、学生、院生が参画し、工学部の新しい顔となるような様々な考え方を盛り込んだものとなっています。
研究室、実験設備の配置などに支障がない空間を獲得するため採用した柱や梁を出さない構造が特徴であり、配管、ダクトなどは躯体の外側から建物にアクセスさせています。
また、スクリーン状の焼き杉板(テラクニカルシラウド)が外部に露出した配管やダクト類を覆い、日よけや風よけなどの機能も果たしています。

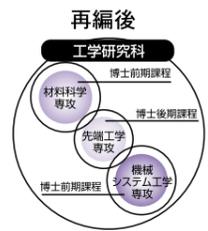
TOPICS 04

環境共生システム 研究センターの 設置

平成20年6月に「公立大学法人滋賀県立大学環境共生システム研究センター」が設置されました。
同センターは、持続可能な社会の実現に向けて、環境共生型地域の創出に関する研究を学際的に推進することを目的としています。
研究テーマにより「産業エコロジー研究部門」「エネルギー技術研究部門」「環境機能再生研究部門」「環境共生都市研究部門」の4部門で構成されています。

TOPICS 05

工学部大学院 博士後期課程 の再編設置



平成21年4月に工学部大学院博士後期課程の工学研究科材料科学専攻と機械システム工学専攻が、「工学研究科先端工学専攻」へと再編設置されます。
再編後
工学研究科
博士前期課程
材料科学専攻
博士後期課程
先端工学専攻
機械システム工学専攻
博士前期課程